

## 令和3年度 活動報告書

団体名 一般社団法人京都わかくさねっと

事業名 少女の居場所「わかくさカフェ」南区事業

### 1 取組内容（今年度取り組んだ内容を具体的に）

#### わかくさカフェ×happiness\*cafeの開催 38回

のべ124名の少女と126名の大学生を主とするスタッフが参加した。  
家庭能力の低さから身に付いていなかった食事を一緒に囲むことから取り組み、学習支援や手芸、お菓子作り、アングーマネージメント講義も取り入れた。様々な体験から、やってみたいという意欲と、達成感を得ることで、少女たちの自己肯定感を上げることを心がけ、少女たちの悩みに対応するために、毎回専属の社会福祉士を配置し、心の悩みに寄り添った。

#### わかくさかふえ×南青少年活動センターの開催 14回

青少年活動センターの平日昼間をひきこもっている若者に来てもらう目的で開催し、のべ82名の若者と48名のスタッフが参加した。  
調理室やラウンジでご飯と作って食べたり、カードゲーム等をして交流を深めた。お正月には、繋がった若者と来所者へ「お好み焼き」を提供する等の企画を実施した。10月からは、南地区更生保護女性会が参加し、昼食の準備やワークを一緒に実施した。

#### 南地区更生保護女性会研修で、講義の実施 1回

### 2 活動の成果（区民、地域に還元されたと考えられること）

#### わかくさカフェ×happiness\*cafe

・来所する少女は、困難な家庭環境にある中学3年生が主で、毎週カフェに参加することで、思春期の受験期を乗り越えることができた。

#### わかくさかふえ×南青少年活動センター

・当初に想定していたひきこもりの若者は繋がらなかったが、センターに来所する困難な家庭環境にある若者と繋がり調理実習や学習支援等の関わりを持つことができた。  
・わかくさねっとに来所する少女たちを地元の青少年活動センターに繋いだり、京都市児相からの相談等にも青少年活動センターのスタッフと共に対応し、多団体で少女を支援するという事例ができた。  
・更生保護女性会と青少年活動センターのネットワークができた。  
・女性会の研修においては、当事者スタッフが講演をし、若年女性を取り巻く社会課題について大人の認識を深めることができた。  
・講演した少女も、自分のことを熱心に聞いてくれた大人がいることに自信を持つことができた。

### 3 活動してみたの課題（次年度以降改善すべきと感じられたことなど）

参加者と地域が限られていたため、関心があるひともなかなか繋がらず、コロナ禍もあり、地域の活動に発展しづらかった。また、ターゲット層へのアプローチが難しく、広報物等の配布が十分にできていなかった。南青少年活動センターの活動においては、当初考えていた潜在するひきこもりの若者への対応について、さまざまな団体と時間を掛けて取り組む必要があると感じた。

### 4 今後の活動予定（自立的な活動に向けての取組予定など）

#### わかくさカフェ×happiness\*café

関わる少女が中学を卒業するため一旦終了の予定、happiness\*café 独自で、少女の居場所を作る予定。

#### わかくさかふえ×南青少年活動センター

補助事業が終了するに伴い、かふえは解散の予定。今後は、南地区更生保護女性会と南青少年活動センターで連携をとって場づくりを考えている。

京都わかくさねっととして、今後もスタッフ間の交流を深め、支援での連携を考えていく。

### 【活動写真】



## 令和3年度 活動報告書

団体名 劇企画パララン翠光団

事業名 アートプレイフル2021

### 1 取組内容（今年度取り組んだ内容を具体的に）

①基本はからだところをほぐすワークショップを40分してから芸術遊びワークショップ90～120分

②上鳥羽児童館でのおぼけやしきイベントを通じて、より目に見える交流を図り、情報周知に努めた。

基本活動ルールとして、参加者、スタッフの検温、アルコール消毒、緊急連絡先の確認をして、換気をかならずして、三密をしない形で距離をとりながら活動をした。

（活動詳細）

① 10月10日(日) 参加者11名

PM1:00～4:00 南青少年活動センター 多目的室

前座 からだところをほぐすWS 務川智正

本編 小道具をつくろう 講師 深津尚美（イラストレーター、俳優）

音楽をかけて、ゆったりしながら、絵をかくことから。プラバンレジンをつくっていく。

② 11月14日(日) 参加者7名

PM1:00～4:00 南青少年活動センター 大会議室

前座 からだところをほぐすWS 務川智正

本編 小道具をつくろう 講師 深津尚美（イラストレーター、俳優）

子どもたちは慣れていて、何気ない会話をしながらすぐにプラバンレジンを作成し、今回はラッピングまでしていく。

③ 12月18日(土) 参加者5名

PM1:00～4:00 南青少年活動センター 大会議室

前座 からだところをほぐすWS 務川智正

本編 小道具をつくろう 講師 深津尚美（イラストレーター、俳優）

今回はクリスマスも近いこともありお互いプレゼントするものとして作る。子どもたちは3回で大分慣れてきて最後にはにこやかに話しかけてくれる。場としての広がりがつくられていた。

④ 12月19日(日) 参加者7名

PM1:00～4:00 南青少年活動センター 大会議室

前座 からだところをほぐすWS 務川智正

本編 大道芸であそぶ（皿まわし・南京玉すだれなど）

講師 剣先あさむ（大道芸人）

ストレッチ・体操・指の運動と細かいことからボールジャグリングや皿回しに挑戦する。

⑤ 1月15日(土)参加者5名

PM1:00~4:00 南青少年活動センター 大会議室

前座 からだとところをほぐすWS 務川智正

本編 大道芸であそぶ(皿まわし・南京玉すだれなど)

講師 剣先あさむ(大道芸人)

ストレッチ・体操・指の運動と細かいことからボールジャグリングや皿回しに挑戦する。次回はみんなで発表する。

⑥ 2月11日(金・祝)参加者5名

PM1:00~4:00 南青少年活動センター 大会議室

前座 からだとところをほぐすWS 務川智正

本編 はじめての演劇ワークショップ 講師 務川智正

導入はシアターゲームをすることによって、話すということについて、各自に話題をふる。発声をかねて他者に向かって楽しいことを話してみる。シアターゲームなどで人と関わる面白さを体験していく。高校生や大学生の参加が多かった。

⑦ 2月13日(日)参加者3名

PM1:00~4:00 南青少年活動センター 大会議室

前座 からだとところをほぐすWS 務川智正

本編 大道芸であそぶ(皿まわし・南京玉すだれなど)

講師 剣先あさむ(大道芸人)

ストレッチ・体操・指の運動と細かいことからボールジャグリングや皿回しに挑戦する。参加者は少なかったが、最後までやろうと参加者同士で力をあわせてひとつの形になった。

⑧ 3月27日(日)参加者3名

PM1:00~4:00 南青少年活動センター 多目的室

前座 からだとところをほぐすWS 務川智正

本編 はじめての演劇ワークショップ 講師 務川智正

ボランティアのふりかえり。今後の話など。

## 2 活動の成果(区民、地域に還元されたと考えられること)

身近な地域において、気軽に文化活動が体験できる機会を提供したこと。

今年度は昨年に引き続き、リピートする小学生たちも多く、学校でも家庭でもない居場所としても展開できた。私たち自身も地域の児童館でのイベントにも行き、そこで大学生のボランティアにも参加してもらい、年齢をこえて同じプログラムを学ぶことでの、顔の見える地域活動が継続できた。

## 3 活動してみたの課題(次年度以降改善すべきと感じられたことなど)

今年度もコロナ禍での、情報宣伝の難しさ。ニーズがあるこどもたちへ拡げていくことに課題を感じた。

#### 4 今後の活動予定（自立的な活動に向けての取組予定など）

今年度も南青少年活動センターで文化的居場所として秋～冬に活動する。それと同時に、出前ワークショップとしていろいろなこどもたちの現場へひろげていく予定です。

#### 【活動写真】



## 令和3年度 活動報告書

団体名 吉祥院体育振興会

事業名 つながろう。わがまち吉祥院！GPSアートで描いてウォーキング

### 1 取組内容（今年度取り組んだ内容を具体的に）

コロナ禍、緊急事態宣言明けの10/1～11/30をイベント本番期間と定め、吉祥院学区の町内会加盟世帯、地元企業、福祉事業所従業員など含む、こどもからお年寄りまで、のべ160名が、GPSアートを描いてウォーキングに参加された。イベント本番までの準備期間中も体験会等実施し、説明会(12回)、アートお絵描き体験会(10回)を開催。日程を設定した参加者募集アートウォーキングイベント(吉祥院仲間づくりウォーク、わくわくホイーリング、GPSゴミ拾いウォーク、車いすアートウォーキング、高齢者と歩こうイベント)を開催。イベントの参加者には、地元企業から協賛参加賞が配られた。個人ごとの応募アート作品表彰は3名が受賞し、カレー、クリアファイル等が配られた。

描かれた作品数は体験会含めると約100作品。そのうち応募された作品は42作品、歩いたアート図案は18作品。町内全体がチームとして参加することはコロナ禍で難しく、代わりにイベント参加者をチームに分け、1文字ずつアート文字を歩いていただき、「KYOTO♥」「ECO」など繋ぎ合わせるメッセージを発信した。GPSアートアドバイザーとして、志水直樹氏を招致し、お絵描き体験会やイベント企画の内容会議なども参加いただき、期間中含め一緒に大会を盛り上げた。

### 2 活動の成果（区民、地域に還元されたと考えられること）

スマートフォンの機能を使ったイベントにより、若い世代の関心を惹き、スマホを持たない子供から使い方を知らないお年寄りまでが、一緒に助け合いながら楽しむイベントが開催できた。

地元企業の参加も好評で、SDGsとしての地域貢献、イベント人材支援としての従業員参加、告知発表や体験会会場としての店舗スペース借与など、担い手不足の自治会と企業の協働が成功した好事例となった。

コロナ禍だからこそ、新しい取り組みを実施することに挑戦できた。しかし、コロナ禍は情報を伝え、意見を集約することが難しく、今後も自治会行事の告知方法として、回覧、集会所のあり方を考える機会となった。結果、子供たちへの周知は小学校の配布物を通して、全校生徒に知らせることができた。

マスコミからの取材は、京都新聞2回、日経BP1回、フジテレビ全国放送ニュース1回が掲載・放送された。複数の地元企業のHPにも、イベント参加の様子や告知内容が期間中に発信された。

### 3 活動してみたの課題（次年度以降改善すべきと感じられたことなど）

緊急事態宣言が長引き、町内ごとのチーム参加が難しかった。町内会も人手不足の課題を抱えており、新しい取り組みを行う場合に、なかなか積極的になれないなどの意見を聞いた。

例年の区民運動会とはイベント名称が異なり、企業にとっては事業名が変わると

「協賛金が出せない」とおっしゃる会社もあった。大きな企業ほど、かなり前からイベントの周知活動が必要になることも分かった。

GPSアート自体が、まだまだ知られてなく、説明会や体験会を事前に行う必要があり、通常のスポーツイベントと異なり時間がかかった。

#### 4 今後の活動予定（自主的な活動に向けての取組予定など）

引き続き、コロナ下の繋がり・健康づくりを進め、町内同士の交流機会の創出を図る。各種団体、企業、福祉事業所、NPOとの連携、協働会議を開催し、自治会の人手不足の課題を解決できる案を出し合う。今年度成果のあった、企業の従業員が町内会を手伝っていただけただことは、引き続き継続して協働体制を構築できるように協議していきたい。

町内会の回覧告知だけでなく、今年度のように小学校からも体育振興会行事を告知していただき、子供たちをはじめ誰もが参加できるイベントを継続して開催していく。

クラブ活動として、GPSアートウォーキングを行うことで、町内会を超えた仲間づくり・健康づくりができる。

各種団体、特に防災との連携、避難訓練にもGPSアートウォーキングで避難経路を描くなど、体育振興会と自主防災の連携を協議していく。

#### 【活動写真】

